

巻頭言

水化学部会副部長 会沢元浩（日立GEニュークリア・エナジー株式会社）

2013年度より水化学部会 副部長を務めさせていただいております日立GEニュークリア・エナジー株式会社の会沢です。これまで、勝村部長および多くの諸先輩の皆様のご指導をいただきつつ水化学部会の活動に参加させていただきましたことにお礼申し上げます。ここで、私の水化学部会活動に対する思いを述べさせていただきます。

原子力発電プラントにおける水化学は、原子力発電所を安全にかつ高い信頼性を持って運転するために必要な極めて重要な技術分野であると考えております。国内の原子力プラントは、これまで計画外停止の数の削減および従事者の被ばく線量低減の分野では、国外のプラントの運転実績に勝る成果を残してきました。これは、会員の皆様、特に諸先輩方の長年にわたる不断のご尽力によるものであることは言うまでもないと思います。これらの実績を達成できた背景には、国内の関係者が一堂に会し、日本の原子力発電プラントの安全と信頼性を担う水化学技術について忌憚のない情報交換や意見交換する場として水化学部会が果たしてきた役割は大きかったとも感じております。

現在は、2011年に発生した、東日本大震災に起因した福島第一原子力発電所の冷却材喪失事故以降、国内の原子力発電プラントは長期に渡り停止している状態が続いています。このような状況においても、会員の方々は、プラントの再稼働に向けた準備に日々尽力されるとともに、福島第一発電所の安定化および廃炉事業に邁進される等、新たな技術分野で活躍されている方々が数多くおられます。特に、福島第一発電所における汚染水の処理では、海水成分等高濃度の不純物を含む汚染水の中から多種・多様な形態を有する放射性物質を検出限界以下のレベルまで浄化する技術の開発が行われており、水化学の面からも新たな技術分野として確立されつつあります。

一方では、昨年10月に、水化学部会が、水化学国際会議（NPC-2014）を札幌にて主催しました。会議では、350人近い研究者および技術者が一堂に会し、活発な議論が行われる成功裏に開催することができました。会議の開催に際しては、準備活動から会議中の運営にいたるまで部会員の皆様より献身的なご支援をいただけたことに心より感謝申し上げます。さらに、NPC2014を主催した経験および会員相互の結束力は、今後の部会活動を堅実に進めるための大き

な礎になるものと期待しております。

プラントの再稼動が待たれる今日ですが、上述しましたように水化学部会の果たす役割は着実に広がりつつあります。水化学部会の継続的な活動を通じて、日本の原子力産業の安全と安心を確固たるものにしていくために、会員の皆様の、変わらぬご支援をお願い申し上げます。